

同志社大学「次世代研究者」プロフィール

2021年10月現在

基本情報					
フリガナ氏名	キサカ 城阪	サウキ 早紀	生年	1990年	
氏名(英字)	KISAKA	Sauki	メールアドレス	skisaka(a)mail.doshisha.ac.jp	
学歴	2009年4月 同志社大学 文学部 国文学科 入学 2013年3月 同志社大学 文学部 国文学科 卒業 2013年4月 同志社大学大学院 文学研究科 国文学専攻博士課程(前期課程) 入学 2015年3月 同志社大学大学院 文学研究科 国文学専攻博士課程(前期課程) 修了 2015年4月 同志社大学大学院 文学研究科 国文学専攻博士課程(後期課程) 入学 2020年3月 同志社大学大学院 文学研究科 国文学専攻博士課程(前期課程) 修了				
職歴	2013年4月-2020年4月 同志社大学文学部・文学研究科 ティーチング・アシスタント 2015年4月-2019年3月 同志社大学 学習支援・教育開発センター ラーニング・アシスタント 2018年1月, 2019年1月, 2020年1月 ソウル神学大学短期プログラム(講師) 2019年4月-現在 大阪大谷大学 文学部非常勤講師 2020年4月-現在 同志社大学 研究開発推進機構特別任用助手(有期研究員) 2020年4月-現在 京都造形芸術大学 芸術学部非常勤講師				
指導教員	廣田 収 教授	取得学位	博士(国文学)	専修外国語・読解可能な外国語	英語
研究活動					
研究分野	国文学				
科研費分類による研究分野	文学／日本文学				
研究テーマ	平家物語を中心とする軍記物語				
研究概要	<p>本研究は、『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』、それぞれの編纂方針を明らかにすることによって、これまで平家物語中の一伝本として扱われてきた覚一本と延慶本を『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』というように、別作品として捉えるという、新たな伝本関係を構築し、軍記物語における諸本を再考することを目的とする。</p> <p>従来は、伝本間の異同として捉えられることのなかった観点、すなわち、同じ語句であっても、伝本ごとに、その意味・用法が異なるという点に着目し、物語を成り立たせている仕掛けや方法について具体的に論じていきたい。</p>				
研究業績	<p>論文:『『覚一本平家物語』「木曾最期」考—「粟津のいくさ」をめぐって』『国語国文』88(3)、2019年3月。など</p> <p>共著:『『平家物語』一谷合戦「一二之懸」考—覚一本と延慶本の異同』『軍記物語の窓』5、和泉書院、2017年12月。など</p> <p>口頭発表:『『覚一本平家物語』法住寺合戦考』中世文学会(2019年春季大会) 2019年5月。など</p> <p>▶詳細は、Researchmap:城阪早紀(https://researchmap.jp/border)をご覧ください。</p>				
所属学会	中世文学会、関西軍記物語研究会				
キャリア関連					
志望進路	教員(大学・高等学校)、研究員、学習支援				
進路					
自己PR	<p>卒業論文・修士論文・博士論文は、すべて『覚一本平家物語』について論じました。一般に平家物語といえば、琵琶法師によって語られた作品という印象が強いですが、近年の研究では口承(口伝)よりも書承(書き継ぎ)を重視する考えが盛んです。こうした研究状況にあって、『覚一本平家物語』を、“語るために作られた、”という生成や“語りを聞く、”という享受の問題と切り離し、どうすれば一つの作品として評価できるのかを考えています。</p> <p>私が文学という分野に関心を持ったのは、どうすれば「考え」をことばにできるのか、どうすれば「ことば」から考えを汲み取れるのか、ということに興味があったからです。非常勤先では日本語文法を、学習支援や留学プログラムでは留学生と日本語を学ぶ機会をいただき、文学とは異なる観点から発見や学びを得ることができています。今後、文学と語学の双方の知見を用いて、もの考えることのできる人になれるよう、精進したいと思います。</p>				
取得資格等	教員免許・国語(中・高)、図書館司書教諭免許、博物館学芸員免許				

※メールアドレスの(a)は@を表しています